

# 古庭園の植栽に関する研究 (2)

—岩戸寺庭園を中心として—

藪内捷之

はじめに

古庭園の植栽について、自然植生ではない庭園植栽すなわち、鑑賞用という cultivated plant の利用、そして庭園植栽での実用性を、岩戸寺庭園の事例で第2報にまとめる。岩戸寺は、兵庫県氷上郡市島町岩戸にあり、ここには昔からの池庭がある。

田の中の細い道を谷添いに登って行くと、突き当たる寺である。城壁を思わせるような石垣が目につく。石段を登りつめると、書院と庭園が見え、清流がすぐ側を道沿いに通っている。

この庭の上に碧座が三カ所（上ノ座、中ノ座、下ノ

座）あり、その昔、文政年間（1818年～1829年）に宍倉上人が入山し、その上流から流れて来る谷川が眼病にきくという信仰を宣伝した。この時代に最も栄え、大勢の人々がここへ参詣に来、経済的にもその礼金のおかげで、本寺院は裕福であったと伝えられている。作庭者は不明であるが、この時代の築庭であると推定できる。

また、この手水鉢は、浄水器と刻まれ、文化元年甲子八月吉日の銘があり、これと同時に文化元年（1804年）には造園されていたという推論も成り立つ。

本庭園の植栽について実測調査（1974年8月30日～31日）のうえまとめることにする。この研究に当たり、豊

岩戸寺庭園実測図

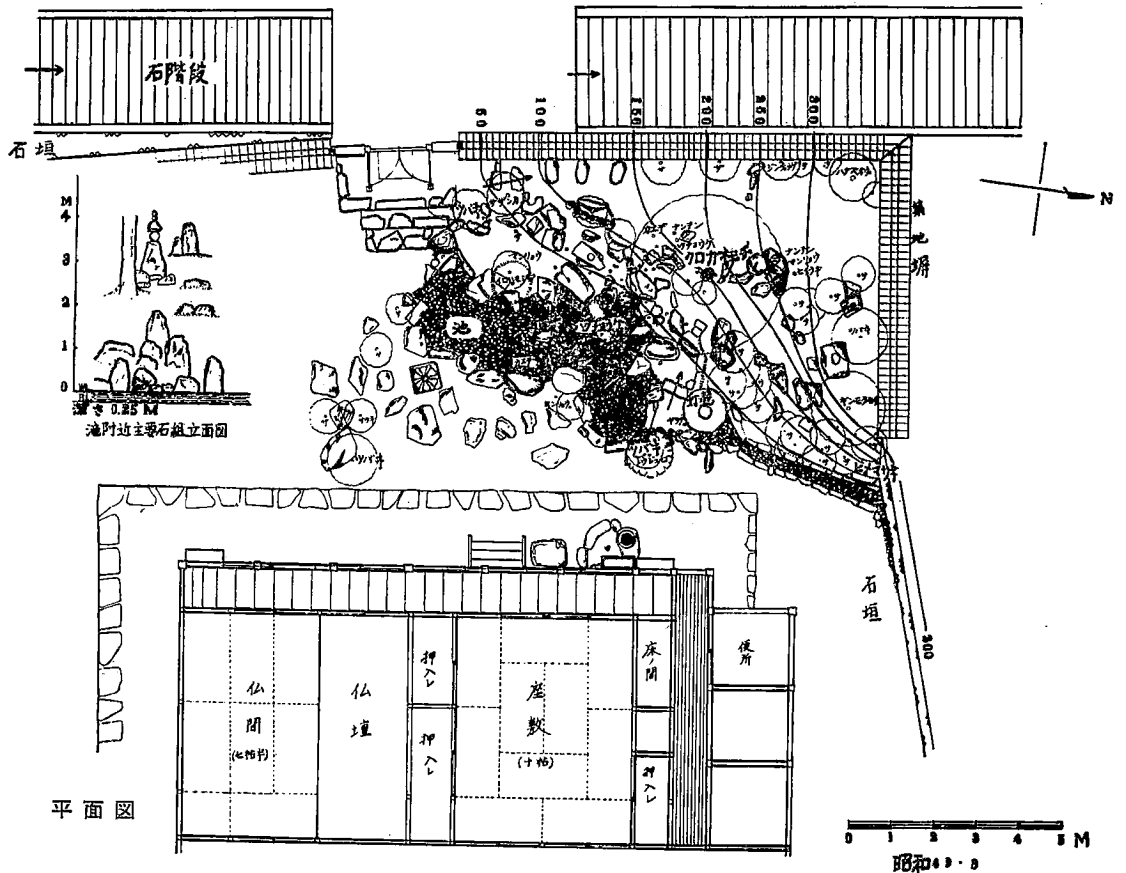


Fig. 1 The Survey Map of Iwatoji Temple Garden

Table 1 The Diagram of Planting Trees

高木植栽一覧表

(above height 1m)

験木名	学名	規模・寸法			数量	単位	備考
		樹高	枝幅	胸高直径			
クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>	610	360	30	1	本	主木
ツバキ	<i>Camellia japonica</i>	160	100	5×2	5	本	
		300	150	12			
		110	100	3			
		150	80	5			
		150	120	6			
サザンカ	<i>Camellia Sasangua</i>	210	110	11	1	本	
カエデ	<i>Acer palmatum</i>	270	110	4	3	本	
		230	100	9			
		130	100	5			
ヒイラギ	<i>Osmanthus ilicifolius</i>	100	70	12	1	本	
ハナズオウ	<i>Cercis chinensis</i>	200	120	5	1	本	
ギンモクセイ	<i>Osmanthus asiaticus</i>	170	170	17	1	本	
ヒメコマユミ	<i>Euonymus alatus forma microphylla</i>	100	70	5	1	本	
ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	230	240	4×3	1	本	
トウジュロ	<i>Trachycarpus Fortunei</i>	200	120	20	1	本	

富な庭園史学の知識の一端を示して下さった西桂氏（兵庫県立農業高等学校勤務）、実測に参画していただいた、当時兵庫県立農業高等学校造園科3学年であった三谷景一郎君（現在大阪芸術大学在学中）ならびに牛尾博工君（現在名城大学在学中）の皆さんには心からの感謝の意を表します。

古庭園の植栽は、過去を明らかにするのではなく、むしろ現代とのかかわりを追究するためにここでとりあげた。すなわち、この研究が大自然の営みと人間の生活環境との接点に設けられた庭園という場に植栽された植物を理解する一助となれば幸である。

1. 庭園構成について

築山の裾に池が連なり、その築山を築地塀の白壁が直角に区切っている。築山の下方には滝石組が立てられ、池泉の中には水分石が伏せられ、池をめぐって斜面がそそりたっている。池水面から築山頂までおよそ高さ3m。縁側から、池と石組のある斜面とを眺める構成となっている。クロガネモチの大木以外は、*Rhododendron*類が散植されている。

石は小さく、池も山際にあり細長く小さい。この庭に到着するまでに、石階段、石垣、勾配のある坂道を体験している。そこで、庭内の右上りの築山、築地塀を見慣れていて、いわばここでは、車の通らない「斜の景観」を見せている。小さな景石、せまい池泉であろうと、ここを觀賞本位の場となさしめているのは、そのためである。（Fig. 1）

2. 庭園における植物の配植

園内の樹木は次のようにまとめられる。

特に、高さ1m以下（ $h < 1m$ ）の低木について要約すると、次の表の如くなる。

この庭園の植栽の特徴は、樹高6mにも及ぶクロガネモチが、剪定されながら、主木として中心に立っている。ほとんど、これだけが高木であり、他の木は中・低木で占められている。敷地がその枝幅3.6mの樹冠によって被われているだけで、他に高木なく明るい庭である。

サツキが一面に生え、その間に景石が顔を出している。明るい斜面であるからこそ、サツキが繁茂している

Table 2 The Diagram of Planting Shrubs

低木植栽一覧表 (below height 1m)

低木	学名	数量	単位	備考
ジンチョウゲ	<i>Daphne odora</i>	1	株	
ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	2	株	
マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	2	株	
ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	2	株	
センリョウ	<i>Chloranthus glaber</i>	1	株	
サツキ	<i>Rhododendron indicum</i>	多数		

と思われる。

ツバキ、サザンカ、ハナズオウ、サツキなど、花を觀賞するものや、カエデなど葉色を楽しむものが多いことがわかる。

また低木では岩間に植える根締めという使い方がなされている。例えば、サツキを初めとして、ジンチョウゲ、ナンテン、マンリョウ、ハクチョウゲ、センリョウ等がそうである。

また、この庭で注目されるのは、白壁の築地塀とサツキの刈込み等とのコントラストである。右上りに続く斜の白さと緑色の植物が巧みな図案効果を上げている。庭門の向って左にある矩形の刈り込みは見事に彫刻的構成



Photo. 1 Whole view of Iwatoji Temple Garden



Photo. 2 The clipped shrubs bordered with a white, roofed mud-wall on the slope

をなしている。

この庭自身は、明るい所であることは既に述べたが、その庭門のセットバックは樹高30m級のスギ、ヒノキ、ヤマモミジ等大木からなっている。西方のこれらの樹林が、囲まれた空間を作り上げている。その高木林の下を清流の谷が流れ、陰影の場が当庭園に影響を及ぼしている。

### まとめ

岩戸寺庭園の植栽は池をとりまくような護岸石組と傾斜面の景石との石間に生えるサツキが鑑賞的にも実用的にも主体となっており、次の諸点を明らかにした。

1. 庭地が明るいいため、サツキがいたる所に繁茂している。サツキだけでなく、低木類が主流を占め、植物群が低い層をなして傾斜面に広がっている。

(Table 1, 2)

2. ツバキ、サザンカ、ハナズオウ、サツキなど花を觀賞するものが多い。

3. 斜に走っている築地塀の白壁を背景にして緑のサツキ刈込が図案効果を上げている。(Phot. 2)

### Summary

The planting of *Iwatoji Temple*, which is famous for the ancient style pond garden in Yedo Period, mainly consist of *Indica Azalea* (*Rhododendron indicum*) growing among the rock combinations around the bank and on the slopes. It chiefly plays the very important part in the garden, from both ornamental and practical point of view.

The writer observed and surveyed carefully the garden as well as its plants, and gained Fig.1 for the purpose of studying the fundamental problems of planting designs.

The obtained results are as follows:

1. Brightness in the pond garden makes *Indica Azalea* (*Rhododendron indicum*) grow thick here and there. Not only *Indica Azalea* but also other shrubs grow in the main place of the garden. (cf. Table 1, 2)

2. There are many kinds of trees to enjoy their flowers in the garden. For instance, *Camellia* (*Camellia japonica*), *Camellia Sasanqua*, *Cercis chinensis*, *Indica Azalea* and so on.

3. The green pruned shrubs of *Indica Azalea* create a successful design with the white roofed mud-wall (*tsuijibei*) situated aslant as a background. (cf. Photo. 2)